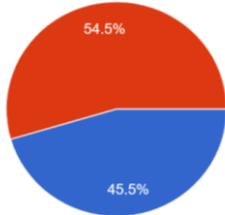


※回答人数：児童23名 保護者17名（児童23名分） 教職員7名

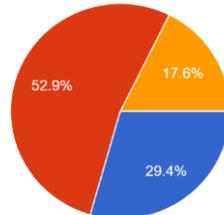
### ◎粘り強く考える子

- ・子1 分かるようになるまで、あきらめずに学習に取り組んでいますか。
- ・保1 お子さんは、分かるようになるまで粘り強く学習に取り組んでいますか。
- ・教1 最後まで粘り強く学習に取り組むよう指導を工夫していますか。

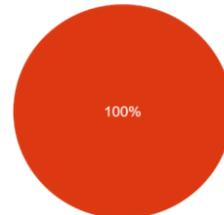
児童



保護者



教職員

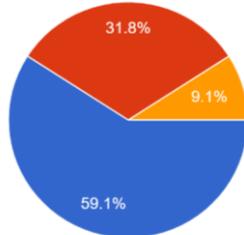


● よくあてはまる  
● ややあてはまる  
● あまりあてはまらない  
● まったくあてはまらない

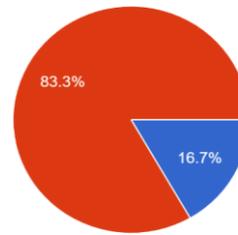
児童の100%が肯定的回答であり、「粘り強く挑戦する」という学校の重点目標が実現できている。保護者についても、80%以上が肯定的に受け止めている。継続して、働きかけや連携を大切にしていく。

- ・子2 自分の考えを友達に伝えたり話し合ったりすることができますか。
- ・保2
- ・教2 自分の考えを友達に伝えたり話し合ったりする場面を意識して設定していますか。

児童



保護者



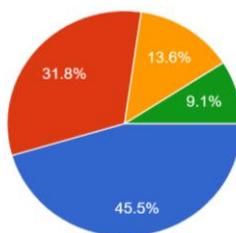
教職員

● よくあてはまる  
● ややあてはまる  
● あまりあてはまらない  
● まったくあてはまらない

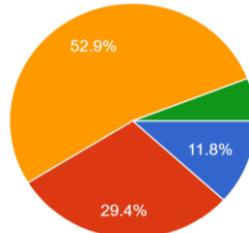
児童の90%以上が肯定的に回答しており、子供たちが友達と主体的にコミュニケーションしている姿がうかがえる。今後はどのようにしたら自分の考えが伝わりやすくなるかなど、より児童の力を伸ばすことができるように、「協働的な学び」の方法を模索していく。

- ・保3 お子さんは、読書に親しんでいますか。
- ・教3 読書の励行や本を活用した学習を積極的に取り入れるよう努めていますか。

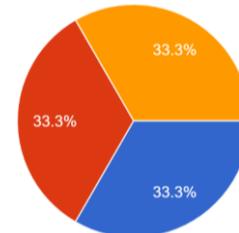
児童



保護者



教職員

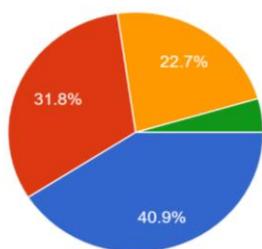


● よくあてはまる  
● ややあてはまる  
● あまりあてはまらない  
● まったくあてはまらない

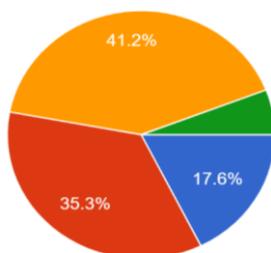
児童・保護者とも、肯定的回答が昨年度よりも20%前後伸びており、「なぎさ丸」の取組が児童にとって大きな原動力になっていると思われる。図書支援員の取組、ノーメディア・ノーゲームデーの実施、放送図書委員会との連携等で、今後さらに読書活動を推進していく。

- ・子4 家で、自分で計画を立てて勉強をしていますか。
- ・保4 お子さんは、家で、自分で計画を立てて勉強をしていますか。
- ・教4

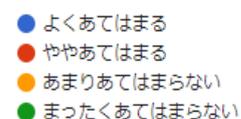
児童



保護者



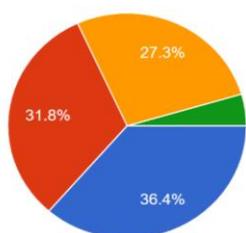
教職員



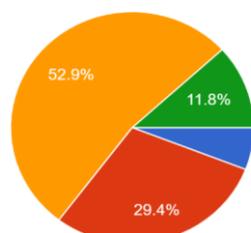
児童・保護者共に、肯定的回答が昨年度より20%以上伸びており、学校の取組の成果が表れている。今後は、どのような家庭学習をしていけば良いか、反省をどのように生かすかなど、計画・実施・反省・改善のサイクルを確立できるように、家庭と連携しながら指導を継続する。

- ・子5 家庭学習の「めやす時間」をクリアしていますか。（学年×10分+10分）
- ・保5 お子さんは、家庭学習の「めやす時間」をクリアしていますか。（学年×10分+10分）
- ・教5

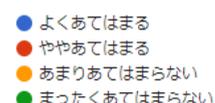
児童



保護者



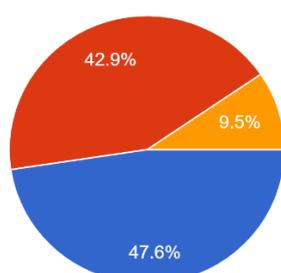
教職員



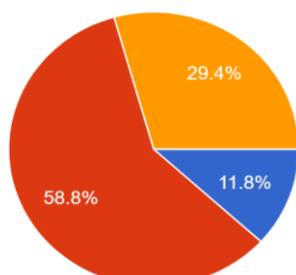
児童は昨年度より肯定的回答が2倍近く伸びて68.2%になったが、一方で保護者の肯定的回答は35.3%にとどまっており、児童と保護者の意識に大きなギャップがある。認識の差の原因は何か、保護者にはどのような形で児童の「家庭学習」の支援や協力をしてもらうかなどを、具体的に明らかにして後期の取組につなげる。

- ・子6 失敗をおそれず、いろいろなことにチャレンジしていますか。
- ・保6 お子さんは、失敗をおそれず、いろいろなことにチャレンジしていますか。
- ・教6 失敗を恐れずチャレンジすることを日頃から意識して指導していますか。

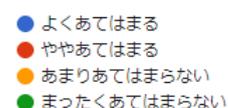
児童



保護者



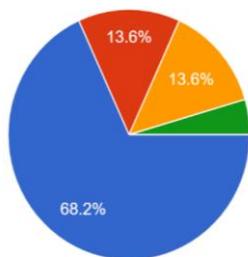
教職員



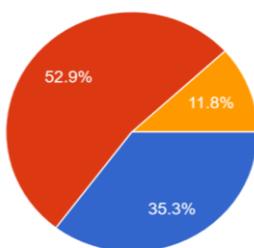
児童の90%以上が肯定的回答であり、子供たちは前向きにチャレンジできていると考えられる。保護者の受け止めとは少しギャップがあるので、学校の取組などの積極的な発信を今後継続する。

- ・子7 学校は楽しいですか。
- ・保7 お子さんは、学校に楽しく通っていますか。
- ・教7

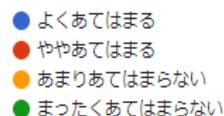
児童



保護者



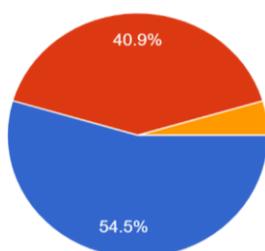
教職員



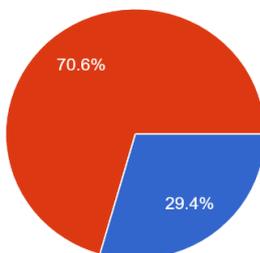
昨年度より少し下がったが、児童の肯定的回答は8割以上となっている。しかし、「まったくあてはまらない」と回答した児童もいることから、教育相談や日常の観察を通し、子供の気持ちに寄り添うようことができるように一層心掛けていく。また、全ての児童が楽しく学校に通えることを目指し、通信や連絡など保護者との連携も大切にしていく。

- ・子8 友達のいいところを見つけられていますか。
- ・保8 お子さんは、友達の良さや一人一人の違いを認めていますか。
- ・教8 友達の良さや一人一人の違いを認め合える学級や学校になるよう取組を工夫していますか。

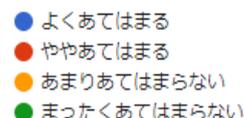
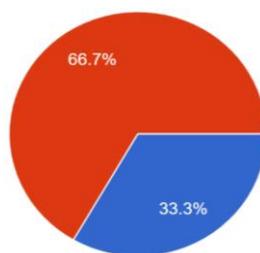
児童



保護者



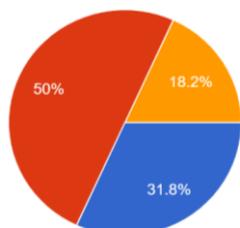
教職員



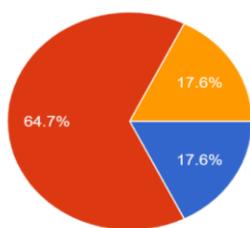
昨年度と大きな変化はないが、ほとんどの児童・保護者は肯定的回答である。更に互いを認め合える学級や学校になるよう取組を工夫していく。

- ・子9 相手の気持ちを考え、やさしい言葉や行動で接していますか。
- ・保9 お子さんは、相手の気持ちを考えた優しい言動が見られますか。
- ・教9 相手の気持ちを考えた優しい言動ができる学級づくりや指導に努めていますか。

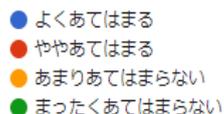
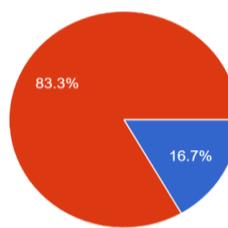
児童



保護者



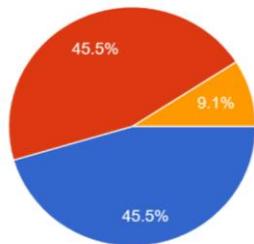
教職員



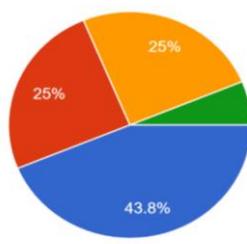
昨年度よりは下がったが、児童・保護者共に80%以上が肯定的な回答である。子供たちが安心して過ごせる学校をどのようにつくっていけばよいかを、教職員だけでなく児童たち自身が考える活動も取り入れていきながら進めていく必要がある。

- ・子10 自分から進んで明るく元気なあいさつをしていますか。
- ・保10 お子さんは、家で自分から明るく元気なあいさつをしていますか。
- ・教10 自分から明るく元気なあいさつができるよう励まし、率先して挨拶をしていますか。

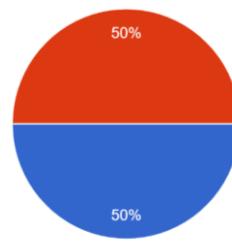
児童



保護者



教職員

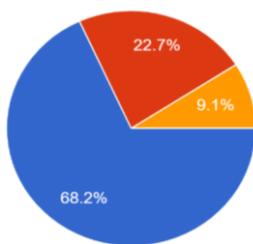


- よくあてはまる
- ややあてはまる
- あまりあてはまらない
- まったくあてはまらない

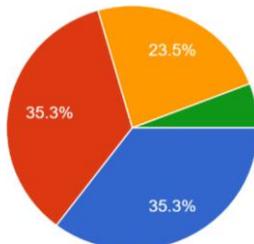
児童の肯定的な回答は90%以上に大幅に伸びているのに対し、保護者の肯定的回答は70%以下に下がっていることから、児童と保護者の間に大きな意識のギャップがあると考えられる。相手が気持ち良いと受け止めるあいさつはどのようなものなのか、月目標などに関連付けたり児童会活動とも連動させたりしながら、子供たちが主体となる取組を進めていく必要がある。

- ・子11 体育の授業以外にも進んでスポーツや体を使った遊びをしていますか。
- ・保11 お子さんは、進んでスポーツや体を使った遊びをしていますか。
- ・教11 体育の授業以外にも普段から運動に親しむよう、声掛けや見守りに努めていますか。

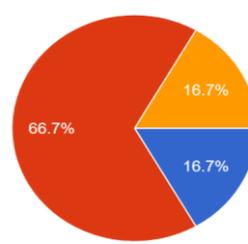
児童



保護者



教職員

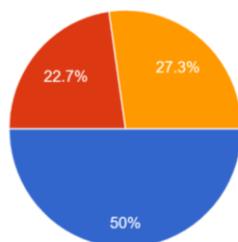


- よくあてはまる
- ややあてはまる
- あまりあてはまらない
- まったくあてはまらない

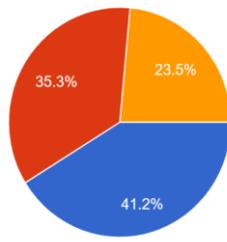
児童は90%以上が肯定的回答。休み時間など元気に体育館や外で体を動かしている児童が多いので、用具の整備や体育の指導、パワーアップタイムなどで運動に親しむ取組を継続する。

- ・子12 生活リズム（早寝・早起き・朝ごはん）に気を付けていますか。
- ・保12 お子さんは、生活リズム（早寝・早起き・朝ごはん）に気を付けていますか。
- ・教12 生活リズム（早寝・早起き・朝ごはん）を意識した指導に努めていますか。

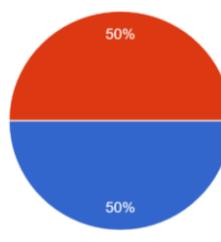
児童



保護者



教職員

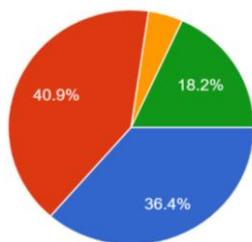


- よくあてはまる
- ややあてはまる
- あまりあてはまらない
- まったくあてはまらない

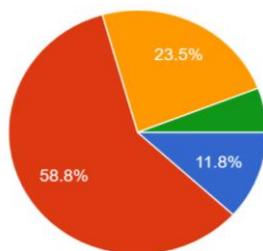
昨年度の90%以上の肯定的回答より、児童・保護者共に70%台まで下がってしまっており、要因を明確にする必要がある。家庭での基本的な生活リズムの安定が、効果的な学習につながっているため、家庭との一層の連携が必要である。また、電子機器の使用については家庭の理解と協力が不可欠なので、勉強会や懇談会なども企画する。

- ・子13 テレビやゲーム、インターネットなどの時間を決めて、やりすぎないようにしていますか。
- ・保13 お子さんは、テレビやゲーム、インターネット等の利用時間やルールを守っていますか。
- ・教13 ゲーム、ネット等メディアの適切な利用について、指導に努めていますか。

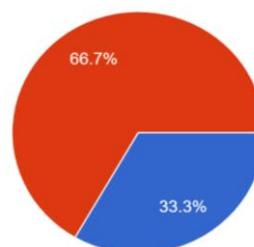
児童



保護者



教職員

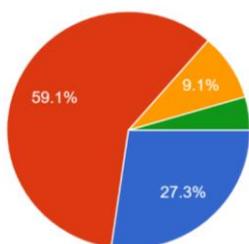


- よくあてはまる
- ややあてはまる
- あまりあてはまらない
- まったくあてはまらない

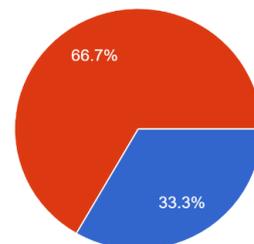
児童・保護者共、70%が肯定的回答であり、児童自身や家庭で、ルールづくりや自律した使い方ができるように努力している姿を感じる。今後も、道徳の指導やノーゲーム・ノーメディアデーなど、電子機器の使い方について継続して指導していく。

- ・子14 マラソンやなわとびなど、自分の目標に向かって真剣に取り組んでいますか。
- ・保14
- ・教14 目標に向かって積極的にチャレンジするよう意欲付けや支援に努めていますか。

児童



保護者

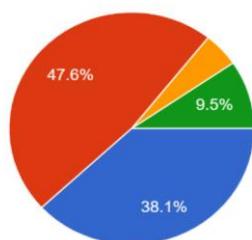


- よくあてはまる
- ややあてはまる
- あまりあてはまらない
- まったくあてはまらない

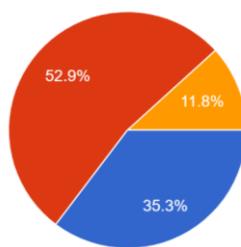
児童の肯定的回答は85%以上となっており、多くの子供たちが目標に向かって積極的にチャレンジできていると考えられる。意欲付けや支援の工夫など、今後も取組を継続していく。

- ・子15 地域の人にあいさつをしていますか。
- ・保15 お子さんは、地域の人にあいさつをしていますか。
- ・教15 地域の人へのあいさつの大切さを指導し、自らも心掛けていますか。

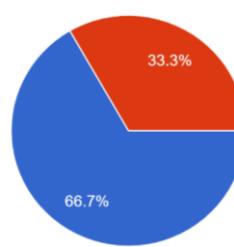
児童



保護者



教職員

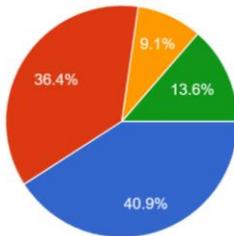


- よくあてはまる
- ややあてはまる
- あまりあてはまらない
- まったくあてはまらない

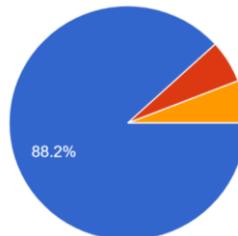
児童・保護者共に85%以上が肯定的回答となっている。全児童が自分から地域の方へしっかり挨拶ができるよう、指導を継続する。家庭でも折にふれて声掛けをお願いしたい。

- ・子16 地域の行事を楽しみにし、進んで参加していますか。
- ・保16 お子さんは、地域の行事を楽しみにし、積極的に参加していますか。
- ・教16 児童が地域の行事に楽しく参加できるよう声掛けに努めていますか。

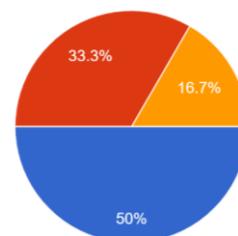
児童



保護者



教職員

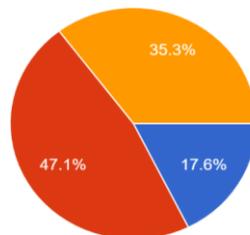


- よくあてはまる
- ややあてはまる
- あまりあてはまらない
- まったくあてはまらない

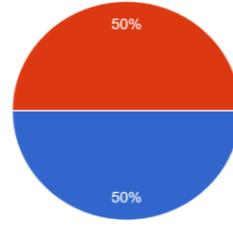
94%以上の保護者(昨年度は62%)が肯定的回答だった。新しい形の地域の行事についてはまだ模索中ではあるが、児童・保護者・学校・地域の4者で話し合いながら、丁寧につくり上げる必要がある。

- ・子17
- ・保17 学校は、家庭との連携を心掛けていると思いますか。
- ・教17 日頃から保護者との連携を心掛けていますか。

児童



保護者

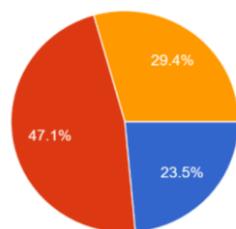


- よくあてはまる
- ややあてはまる
- あまりあてはまらない
- まったくあてはまらない

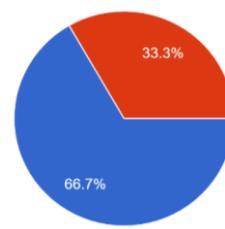
教職員と保護者の認識に大きな隔りがある。今までの方法では連携が不十分だと考えている保護者が多いと捉え、学校と家庭の連携について見直す必要がある。家庭への声の掛け方、通信の内容の精選など、どのようにして家庭との連携を進めていくかを、具体化し実践する。

- ・子18
- ・保18 学校は、児童の安全に気を付けて教育活動をしていると思いますか。
- ・教18 児童の安全に気を付けて教育活動をしていますか。

児童



保護者

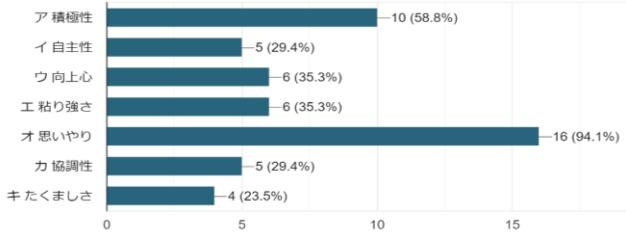


- よくあてはまる
- ややあてはまる
- あまりあてはまらない
- まったくあてはまらない

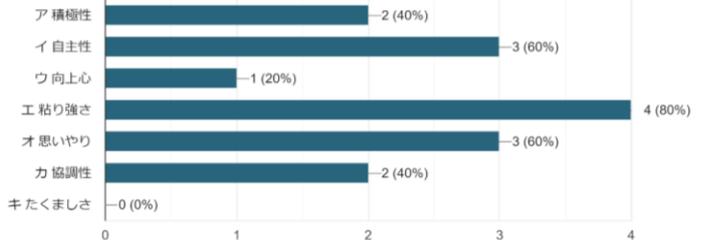
保護者の30%が不十分と感じていることに、学校として、安全・安心についての危機管理意識をさらに高める必要がある。保護者への事前・事後の連絡や周知、学校が取り組んでいること(毎月の校内安全点検、学期に1回の校外安全点検)の発信、ケガや緊急時はもちろん、日常からの家庭との連携など、1学期よりも一段高いレベルでの対応を心掛けていく。

- ・子19
- ・保19 宗谷小の子供たちの成長してほしいところは？（三つ回答）
- ・教19 宗谷小の子供たちの成長してほしいところは？（三つ回答）

保護者



教職員



保護者・教職員の共通項目 ア積極性、ウ向上心、オ思いやり、カ協調性

相違点 保護者 キたくましさ

教職員 イ自主性 エ粘り強さ

保護者と教職員とで、求めるものが相違する部分もあるが、学校の重点目標に照らし合わせて、学校が力を入れていることを積極的に発信し、保護者に理解してもらえるように努力する。

【学校評価まとめ】

★三者（二者）とも昨年度より向上した項目 → 【成果】

- ①電子機器のルール
- ②粘り強い学習への取組・読書習慣・学習の計画

★昨年度との比較から課題と見られること → 【課題】

①家庭学習の「めやす時間」に、児童(68.2)と保護者(35.3)で大きな差がある。

・要因として考えられることは2つ。

- 1 「家庭学習」とは、何を指しているのか。児童と保護者に改めて丁寧に説明する。
- 2 児童の「家庭学習」の実態を保護者とどのように共有するか、「見える化」する必要がある。

②あいさつに対して、児童(90.9)と(70.6)保護者で大きな差がある。

・要因としては、児童と保護者が考える「あいさつ」に対する認識に差がある。

児童はできていると考えているのに、保護者ができていないと感じるのは、保護者は、もっと「自主的」で「大きな(元気な)あいさつを求めているからだと考えられる。将来社会などで通じるあいさつを考えた場合は、今の子供たちのあいさつでは不十分なので、どのようなあいさつが必要とされているかを教える必要がある。毎日の朝・帰りの会や授業のあいさつ、ソーシャルスキルトレーニング、学校外の体験活動や外部人材の登用など、教職員や保護者以外の大人と接する機会を意図的に仕掛ける工夫をしていく。【指導・学級】

③生活リズム⇒児童(94.8→72.7)・保護者(90.4→76.5)の肯定的回答が下がっている。

・生活リズムが安定していない原因を、学校と家庭で具体的に共有する必要性がある。【指導・学級】

④家庭との連携⇒保護者(家庭連携64.7、安全な教育活動70.6)・教職員(家庭連携・安全な教育活動100)とに30%の差

・どのような部分に保護者が連携不足を感じているのか、何を求めているのかを、学級懇談や個人面談で明確にする必要がある。それと共に、普段の家庭との連携の在り方(子どもの良い部分を伝える、課題を伝えるだけでなく家庭で困っていることに寄り添うなど)、や通信の内容の精選(子どもの頑張りや成長点を具体的に伝える)、学校の発信の方法を工夫していく必要がある。【学級・学校】

★児童の90%以上の肯定的回答が増えた。(昨年度3つ→今年度5つ)

- ①粘り強く学習に取り組む。(粘り強さ)
- ②自分の考えを友達に伝えたり話し合ったりできる。(主体性)
- ③失敗をおそれず、いろいろなことにチャレンジできる。(挑戦)
- ④自分から進んで明るく元気なあいさつができる。(主体性)
- ⑤進んでスポーツや体を使った遊びをしている。(主体性)

→令和6年度の重点目標と子供の受け止めが合致していて、取組が順調に進められている成果と考えられる

★児童の回答で、「よくあてはまる」+「ややあてはまる」が70%前後→【今後の課題】

①家庭学習時間をクリアしている。(68.2)

・1日のどの時間帯に「家庭学習」をするかを位置づけ、習慣化するために学校と家庭で具体的に連携する。

②生活リズムに気を付けている。(72.7)

・子ども自身にできない原因を明確にさせ、改善方法を考えさせて、具体的に取組ませ、繰り返して指導する。

→昨年度に比べて、肯定的回答(70%前後の回答)が大幅に減少している。課題についての改善の取組は、分掌内で協議し、9月の会議で具体案を提案し実行する。2学期に検証を進めて、第2回の学校評価で検証する。